研究員の受賞報告

このたび、研究員が賞を授与されましたので、ここで紹介いたします。

企画調整部の加藤真二部長が、旧石器研究の発展に貢献し、優れた業績をあげた会員に授与される2020年度日本旧石器学会学会賞を受賞しました。選考理由は「長年、中国旧石器研究に携わり、常にその成果を発信し続けてきた。『中国北部の旧石器文化』では、膨大な資料・文献調査による網羅的なデータに基づいた中国旧石器時代の時期区分と技術変遷を提示した。また、李占揚山東大学教授との河南省霊井石器群の共同研究では、矢出川技法は華北地方で出現、西南日本に伝播したとする仮説を提唱した。近年では、約20～２万年前の134の石器群を類型分類し、その時空間変遷をまとめた「中国の旧石器―その石器群類型と編年―」を『旧石器研究』15に発表した。これらは、東アジアの旧石器時代を把握する上で重要で、日本旧石器研究の発展に資するところ大」でした。

また、環境考古学研究室の山崎健室長の著書『農耕開始期の動物考古学』（六一書房）が、第11回日本考古学協会の奨励賞を受賞しました。この賞は国内外で刊行された考古学関連分野の著作物が選考対象となっており、奨励賞は考古学の研究分野において今後の活動が期待できる優れた業績に贈られるものです。本書は、縄文時代晩期～弥生時代の動物遺存体を研究し、農耕開始期における動物資源利用の実態をあきらかにしました。二部構成となっており、第Ⅰ部は伊勢湾・三河湾沿岸における事例研究（名古屋大学大学院生命農学研究科へ提出した博士論文）、第Ⅱ部は事例研究の課題をふまえて調査論、方法論、社会貢献について今後の展望を論じています。

（奈文研ニュース編集委員）

受賞された加藤部長と山崎室長